情報共有のためのモバイル端末シンクライアント化に関する研究

03H011 上辻 一由

1　はじめに

個人情報保護法が施行され情報漏洩が問題になっている昨今、携帯電話をシンクライアント (Thin Client) 化することによって携帯電話からの情報漏洩を防ぐことを目的とするシステムの研究を行う。

携帯電話はこれから本格的に始まるユビキタスコンピューティング (Ubiquitous Computing) の要となる端末になると考える。現在 (2006 年 10 月末現在)、日本での携帯電話契約数は約 9400 万人であり、人口の 70% 以上が携帯電話を保有し、既に加入電話 (固定電話) よりも契約数が多くなっている。携帯電話はポケットにも入る小型情報端末であり、パーソナルコンピュータ (Personal Computer) に比べるとスペックは劣るが安価で手に入れやすい。本研究ではその携帯電話を使用し、その中の電話帳という部分に特化して研究を行う。

本研究のシンクライアントとは携帯電話から電話帳の漏洩を防ぐこと、携帯端末に保存することができる容量よりも多くのデータを保存することを目的とする。このシステムにより、電話帳にデータを保存しないので携帯電話からの情報漏洩を防ぐことができる。

本研究では電話帳を SNS(Social Networking Service:ソーシャル・ネットワーク・サービス) 化することで非公開情報のレベル分けされた共有を目指す。コミュニティ内で電話帳の情報共有を行い、電話帳のレベル分けを目指す。本システムは主に携帯電話からの使用を目的としているので、操作方法等は携帯電話の使い勝手を優先して構築するものとする。

2　考察

アクセスキーなどを設置し、携帯電話での使用ということを前提に開発をした。電話帳のデータを保存するファイルも 1 つなので管理者のバックアップ作業が容易である。

後々、実現可能なセキュリティよりも、メインシステムの部分の開発を優先した。そのためログインページで入力した ID・パスワードをパスワードファイルとマッチングするという簡単な認証のものとした。この部分の改良の余地は十分にある。また、携帯電話で使用する点以外の GUI(Graphical User Interface:グラフィカルユーザインターフェース) を考慮しては作っていない。この部分も改良の余地は十分にある。

従来でも電話帳のプログラムはあったが、本研究はそれに SNS のコミュニティ機能を付加している。これにより、コミュニティの参加者は互いに連絡しなくても電話番号を共有できる。連絡網等の作成も容易にできる。しかし、共有されたデータについては参加者のリテラシーに大きく関わっている。

3　まとめ

本研究では携帯電話とサーバを通信し、携帯電話の Web ブラウザ上から電話帳を取り込むシステムを構築した。昨今、騒がれている情報漏洩の観点も考え、シンクライアントシステムも導入した。多くの人が持っている携帯電話だからこそ情報漏洩という観点を重要視しなければならない。そこからの情報漏洩は当人のみならず多数の個人情報の漏洩につながる。このシステムを利用することにより、携帯電話の電話帳にデータを保存しないため携帯電話からの情報漏洩を防ぐことができる。また、電話帳を SNS 化することにより非公開情報の共有を可能とする。改善すべき点は多々あり、実用するまでには至っていない。しかし、時代のニーズには合致しているので今後も本システムを発展させていきたい。